

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

エンパワメントスクール(ES)の役割を十分に果たし、人間力を向上させ、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する

- 学びを大切にし、基礎基本の確かな学力の向上と、夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識・コミュニケーション力を身に着け、自己と他者を大切にできる人間育成と、生徒が安心・安全・満足できる学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

1 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取組み

(1) ESの基本である学び直し学習を着実にを行い、発展的学力や知識習得のための取組み

ア 「授業力向上プロジェクト」にて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組みを行う。

すべての教科で「何をどのように学び」「何ができるようになるのか」を明確に伝え授業の実践に取り組む。

*生徒向け学校教育自己診断における授業満足度令和2年度は70%、令和4年度に75%にする。(H29・41.0%、H30・48.5%、R1・63.2%)

イ ICTを活用した学びの充実(すべての普通教室でインターネットが繋がる環境と、タブレットを無線でつなぐ環境の整備)

* プロジェクター、タブレット等ICT機器の活用方法を一層研究し活用を進める。

生徒満足度 80%をめざす(H29・67.6%、H30・71.0%、R1・82.6%)

* 座学でのICT活用実施者割合を令和2年度は100%とし令和4年度までも維持する(H29・60%、H30・100%、R1・100%)

2 高い規範意識とコミュニケーション力で自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活を送れる学校作り

(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化

イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

*いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり

*寄り添う心と丁寧な指導で、生徒の安全で安心な学習環境を維持する。不登校ゼロをめざす

(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化

ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化

*令和2年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」の目標を80%にし、令和4年度には90%にする。

(H29・78.1%、H30・75.3%、R1、71.8%)

*令和2年度生徒対象学校教育自己診断で、「学校へ行くのが楽しい」の目標を80%にし、令和4年度には90%にする。

(H29・61.4%、H30・68.0%、R1、69.9%)

*総遅刻回数・欠席日数とも前年比各10%減を達成する。

(遅刻H29・55%、H30・5%、R1・28.2%(増) 欠席H29・15%、H30・20%、R1・29.4%(増))

*中退率維持 ゼロをめざす(H29・0.8%、H30・0.68%、R1・0.1%)

イ 部活動の活性化

*令和2年度、部活動加入率全体70%、1年生80%にし、令和4年度全体の加入率80%をめざす(H29・73.9%、H30・51.0%、R1・62%)

3 進路保障

(1) 基礎学力を身に着け、発展的学力を充実させる。

ア 授業公開3回実施。教員相互の授業見学を積極的に行い、毎回レポートを提出。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実

*教育産業が実施する学力診断テストを用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標であるD3の割合を令和2年度も10%減をめざし令和4年度は全体の10%以下を目標とする。(H29・14%、H30・8.4%、R1・28%減) R1より実数ではなく減少割合を指標とすることにした

(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み

ア 進路指導部主導型の進路指導体制を構築し、卒業時進路未決定者0(ゼロ)の実現

*入学当初の進路希望・夢実現に向けて、やる気にさせる取組みを実施

*進路未決定卒業生率を令和2年度以降減少させゼロをめざす。(H29・0、H30・1、R1、4)

イ 社会で役立つ資格等を取得するための取組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。(成城セミナー開講)

*令和2年度の資格取得者・検定試験合格者数500名を目標とし、令和4年度まで維持する。(H29・652名、H30・434名、R1・603名)

ウ 系列のさらなる充実を図り、生徒のニーズに即した仕掛けで、夢の実現を支援する。

4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり

(1) 令和2年度入学者選抜志願者確保

ア 「チーム成城」での組織的な情報発信

*中学校訪問150校実施を組織的に取組み強化しそれを維持する。(H29・190校、H30・226校、R1・218校)

*学校説明会を年5回実施 参加者800名以上を目標とする。(令和元年度は生徒・保護者向け5回計835名)

*令和2年度入試入学者の第一志望での入学者数を95%とし、令和4年度まで維持する。(H29・84.2%、H30・86%、R1・93%)

イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

*文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を維持する。(H29・1061名、H30・1033名、R1・1094名)

5 組織の活性化と人材育成

(1) 「成城みらいプロジェクト」をさらに充実させ、初任者を含む経験の少ない教員のスキルアップを図る校内研修を充実させる。

※相互の授業見学を積極的に行い、良好な人間関係と授業力向上をめざす。

※5年後の成城を見据えた新たな取組みを模索し、職員会議に提案する

(2) コンプライアンス意識の向上職務の効率化の取組み

(3) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底

(4) 職務の効率化の取組み ※年間時間外勤務 → 400h以内

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 本校がめざすエンパワメントとしての成果をあげる取り組み	<p>(1) ESの基本である学び直し学習を着実に進め、発展的学力や知識習得ための取組み</p> <p>ア 授業力向上研修の充実</p> <p>イ ICTを活用した学びの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・「授業力向上プロジェクト」を機能させ授業力向上目的とした研修の企画、立案、実施を計画的に行う。</p> <p>イ・新しい取り組みを積極的に取り入れ、生徒の学ぶ意欲を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・「わかる授業」「何が出来るようになったか」を実感できる授業」を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を令和2年度は65%に引き上げる。(令和元年度は63.2%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断において「授業などでタブレットやプロジェクター、コンピューターを活用している」の項目の満足度を85%にする。 (令和元年度は82.6%) ・ICT活用実施者を令和2年度80%以上を維持する。</p>	
2 高い規範意識で自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活を送れる学校づくり	<p>(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応の充実</p> <p>ア 支援コーディネーター、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化</p> <p>イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導</p> <p>(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化</p> <p>ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う</p> <p>イ ・式辞及び生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。 ・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。(定期的には年間3回)</p> <p>(2)</p> <p>ア・教頭、首席が中心となり、初任者を中心とした教師力向上研修を継続実施。 ・規律指導と安全安心、学習指導の充実を柱に、生徒に寄り添い、支援していく姿勢を貫く</p> <p>・成城セミナーの充実。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。</p> <p>イ ・生徒向け学校教育自己診断における「先生はいじめなどについて私たちが困っていること真剣に対応してくれる」を令和2年度75%とする。 (令和元年度は71.6%) ・いじめアンケート3回実施</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断の保護者の「学校への満足度」満足度70%をめざす。 ・生徒の「学校へ行くのが楽しい」を75%にする。 (令和元年度は69.9%) ・学校教育自己診断の生徒項目「成城に入学してよかった」を80%目標とする。 (令和元年度…エンパワメントスクールへ入学してよかった71.1%)</p>	

	イ 部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との対話を通じ、関係性を築くことでの安易な遅刻、欠席、早退の防止。 学校生活を最後まで支援する姿勢を貫く。 イ・生徒会を充実させ、生徒が中心となって部活動活性化の活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> 総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10%減を達成する。 (令和元年度遅刻 1667 回、欠席 3192 日) 中退率の維持 (令和元年度は 0.1%) イ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。 (全員体験入部 2 日) 1 年生の部活動加入率 80%を実現する。	
3 進路保障	<p>(1) 基礎学力を身に付け、発展的学力を充実させる取り組み。 ア 公開授業・研究協議を充実させた授業改善。</p> <p>イ「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実</p> <p>(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取り組み ア 進路指導部主導型の進路指導体制構築</p> <p>イ 社会で役立つ資格等を取得するための取り組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・研究授業、公開授業、授業見学を計画的・組織的に実施。各学期に 1 度</p> <p>イ・教育産業が実施する学力診断テストを継続し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチベーションを上げるとともに、教員のスキルアップの材料とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学と連携を図り「主体的・対話的で深い学び」の校内研修を実施する。2 回計画 <p>(2)</p> <p>ア・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じての情報提供を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、看護医療の 4 つの係に担当を明確化し、学年団への指導と進路希望別に生徒への直接指導を行う。 <p>イ・卒業時に英検 3 級程度の力をつけさせる (積極的に GTEC を導入) 1 年生は全員必須またそのための学習の機会を設ける。 ・生徒・保護者への周知・指導強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 成城セミナーの充実 自らの学習課題を明確に意識し、テキストも自ら選び、自学自習の習慣を身につけさせ、主体的で深い学びの実現で、目指す自分につなげる授業 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を 70%にする。 (令和元年度は 63.2%)</p> <p>イ・学力判定指標 D3 の割合を 10%減少させる。 (令和元年度 28%減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員研修参加率 95%を実現する。令和元年度は 80% <p>(2)</p> <p>ア・保護者の学校教育自己診断における「学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている。」について令和 2 年度は 90%を目標とする。 (令和元年度は 85.2%) ・卒業時進路未決定者 0 (ゼロ) 実現</p> <p>イ・令和 2 年度 2 級程度 2 名 準 2 級程度 15 名 3 級程度 50 名を実現。 (令和元年度は 2 級 0 名 準 2 級 4 名 3 級 39 名) ・資格取得者・検定試験合格者を 600 名以上にする。 (令和元年度は 603 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナー受講者 20 名を目標 	
	<p>(1) 令和 3 年度入学者選抜志願者確保</p> <p>ア「チーム成城」での組織的な情報発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア「チーム成城」での組織的な情報発信 ・学校訪問を維持し、本校の実践内容を広く知ってもらう。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中学校訪問 200 校実施を組織的に取り組む。 (令和元年 218 校)</p>	

<p>4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり</p>	<p>イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり</p>	<p>・学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取り組み、経験の少ない教員にも経験を積ませる。</p> <p>イ・地域の諸機関・事業所との交流・連携</p> <p>・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進め、内容の充実を図る。</p>	<p>・中学2・3年生徒・保護者・中学校教員等を5回開催し、計800名の参加を集める。 (令和元年度は生徒・保護者向け5回 835名)</p> <p>・塾経営者への学校説明会1回</p> <p>・中学校進路指導委主事向け説明会1回 (令和元年度塾 12名、進路主事 21名)</p> <p>・令和2年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。90%を目標 (令和元年度は93%)</p> <p>イ・広報活動の充実。 成城ニュースを積極的に発行し、玄関前に掲示するとともに、了解の得られた地域や中学校へ啓示願う。 (令和元年度は 100号) HPの充実</p> <p>・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。 (令和元年度は吹奏楽部・ダンス部が福祉施設へ慰問。吹奏楽部・創作部が夏祭りに参加)</p> <p>・文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を迎える。 (令和元年度は1094名)</p>	
<p>5 校内組織の活性化と人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取り組み</p> <p>ア 初任者を含む経験の少ない教員の教師力向上。</p> <p>イ コンプライアンスの意識を高め徹底する</p> <p>ウ 危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高め、行内体制を組み取り組む。</p> <p>エ 時間外勤務を軽減させる。</p>	<p>ア・「成城みらいプロジェクト」を充実させ、未来を見据えた人材育成と、新たな取り組みへの着手する。</p> <p>・授業見学週間の充実。</p> <p>イ・会議等において、不祥事の防止、個人情報の適正管理、職場のハラスメント防止について周知</p> <p>ウ・校内においてマニュアルを作成し、全教職員に周知・徹底する。</p> <p>エ・職務が勤務時間内に終えるように、効率的に取り組む。</p>	<p>ア・学期に一回の教頭・首席が中心となり教員のスキルアップをはかる。</p> <p>・授業観察用紙提出数目標 100枚とする。(様式変更)</p> <p>イ・不祥事、個人情報の漏洩、職場のハラスメントの事象を0件にする。</p> <p>・万が一事象が発生した時は、直ちに管理職に報告することを周知徹底する。</p> <p>ウ・年間を通じて1回研修を実施する。</p> <p>エ・年間を通して時間外勤務を400h以内にする。</p> <p>・計画的に年次休暇・振替休暇の取得をする。</p>	